

2022年10月3日

月島機械株式会社

「諏訪湖流域下水道豊田終末処理場消化ガス発電事業」発電開始式を開催
～脱炭素社会に貢献する民設民営方式のFIT事業～

月島機械株式会社（社長：福沢 義之）は、ヤンマーエネルギーシステム株式会社、TC月島エネルギーソリューション合同会社と構成する企業共同体で、長野県諏訪湖流域下水道事務所との間で締結した「諏訪湖流域下水道豊田終末処理場消化ガス発電事業」（以下、「本事業」）に係る事業契約に基づいて発電設備を建設し、発電開始式を行いましたのでお知らせいたします。

下水汚泥処理の過程で発生する消化ガス（バイオガス）は、メタンを主成分とする可燃性ガスで、利用可能な再生可能エネルギー源の一つであり地球温暖化対策の一環としての有効利用が期待されています。

本事業は、長野県諏訪湖流域下水道豊田終末処理場で発生する消化ガスを有効利用し、民間の資金とノウハウを活用した民設民営方式による下水処理場での発電事業です。当企業体は、東京センチュリー㈱と当社が共同出資して設立したTC月島エネルギーソリューション合同会社の発電設備に対するリース・ファイナンスを活用し、納入実績が豊富なヤンマーエネルギーシステム㈱製の消化ガス発電装置を使用した発電設備を建設して、「電気事業者による再生可能エネルギーの電気の調達に関する特別措置法」に基づく固定価格買取制度（FIT）を利用した20年間の発電事業を行います。

当企業体と長野県は、2021年2月24日に本事業の「基本協定」を締結、2022年6月10日付で「消化ガス供給契約」を締結し、2022年10月1日より事業を開始しました。本事業において、長野県は当社に建設用地及び発電の燃料となる消化ガスを提供することで、その対価を諏訪湖流域下水道事業の維持管理費として活用します。

当社は、下水処理場における汚泥処理に強みを持ち、汚泥消化設備、ガス貯留設備および発電設備の豊富な実績を誇るとともに、上下水道におけるPFI・DBO事業をはじめとした「ライフサイクルビジネス」を積極的に展開し、長期事業運営に必要な豊富な実績とノウハウを培ってまいりました。

本事業においてもそれらを最大限に活かし、効率的で安定した発電事業の運営を行います。今後も、地球温暖化防止、脱炭素社会に貢献する消化ガス発電事業の普及拡大に向けて、積極的に取り組んでまいります。



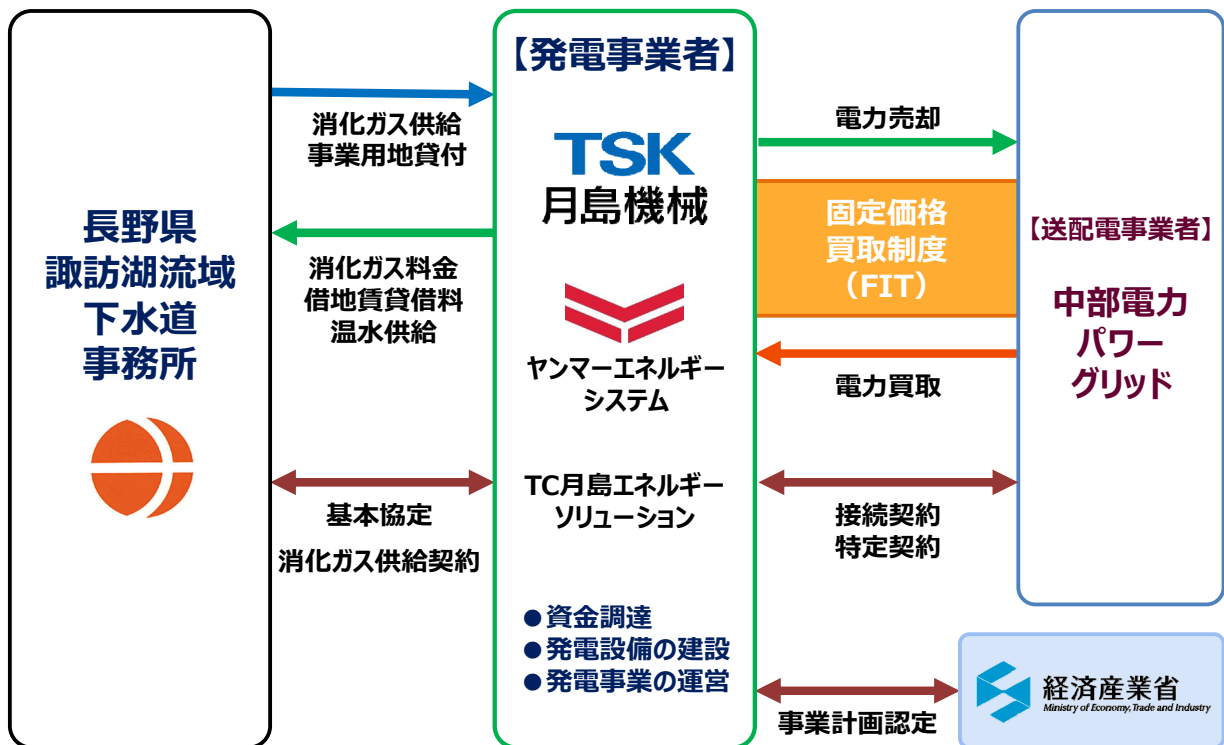
消化ガス発電設備



発電開始式の様子

諏訪湖流域下水道豊田終末処理場消化ガス発電事業の概要

1. 事業名 : 諏訪湖流域下水道豊田終末処理場消化ガス発電事業
2. 事業場所 : 長野県諏訪市大字豊田字湖畔1866-1 (豊田終末処理場)
3. 施設概要 : 消化ガス発電設備 設備容量 300kW (ガスエンジン 25kW×12台)
4. 年間発電量 : 約200万kWh (一般家庭 約560世帯相当)
5. 発電事業期間 : 2022年10月 ~ 2042年9月 (20年間)
6. 事業スキーム



《本リリース に関するお問い合わせ先》

月島機械株式会社 経営統括本部 広報室

TEL 03-5560-6503

《消化ガス発電事業 に関するお問い合わせ先》

月島機械株式会社 水環境事業本部 PPP 事業推進室

TEL 03-5560-6540

以上